

「学び」イベント情報 募集中!!

Web版は随時更新。紙版次号向けには
6月上旬までに情報をお寄せください。掲載料は無料です。

＜オンラインでも楽しめる＞ シリーズ

東北大学総合博物館 公式 YouTube 動画
https://www.youtube.com/channel/UC9ZXliVvyIGr6eHmlH5_v3Q

施設紹介、各種展示解説など

東北学院大学博物館
<https://www.ipc.tohoku-gakuin.ac.jp/tgum/kikaku2020-12.html>

企画展「蔵品、御開帳。～私ノ「推シ」ヲ紹介シマス。～」
 動画でも展示解説しています！

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館 Web 展示室
<https://www.tfu.ac.jp/kogeikan/ouchi/index.html>

展示室Ⅴ「古代アンデス 一染織と土器」
 展示室Ⅵ「芹沢銈介・作品と蒐集
 一収蔵品セレクション」
 展示室Ⅶ「芹沢銈介の世界 一いろは編一/
 とつくにのアイコン・日本の絵馬」
 展示室Ⅷ「芹沢銈介 本と文字デザイン/
 芹沢コレクションのタパクロス」

せんだい環境学習館たまきさんサロン
https://www.tamaki3.jp/feel_sendai/movie/

「杜の都の市民環境教育・学習推進会議」
 (愛称：FEEL Sendai (フィールセンダイ))
 <動画で学ぼう！環境学習>

仙台市博物館「おうちで楽しむ展覧会」
https://www.city.sendai.jp/museum/tenji/ouchitenrankai_top.html


- ・おうちで楽しむ展覧会 YouTube 伊達武将隊と行く！はっけん！仙台市博物館
- ・おうちで楽しむ展覧会 ホームページ 重要文化財指定記念「伊達家文書と藩主の印章」
- ・チャレンジ！おうちで楽しむ博物館

スリーエム仙台市科学館 YouTube チャンネル
https://www.youtube.com/channel/UCJlw6iptGz21s5sONei_VRg/featured

- ・おうちで科学館
- ・おうちでチャレンジ・ラボ
- ・中学生向け理解学習動画
- ・小学生向け理解学習動画

など多数

第57回 **名著への旅**



『悪循環の現象学
「行為の意図せざる結果」
をめぐって』
長谷正人 著
ハーベスト社
(1991年3月15日 第1刷発行)

人に好かれようと社会的に振る舞ったら「八方美人」と言われてしまう。早く寝ようと意識すればするほど目が冴えてしまう。このような、経験はないだろうか。

意図を持ってなされた行為が、その意図に反する結果を生むことを「行為の意図せざる結果」という。本書はこの概念を中心に、日々のやりとりから社会の病理までを見通し、その悪循環の根本に迫ろうとしている。

筆者によれば、「行為の意図せざる結果」は近代社会の象徴的な現象である。すなわち、近代は個々が主体的であることを求めるが、それに従うことは能動性の発露ではない。このような自己矛盾を孕んだ近代への応答方法として、筆者は不器用であることを推奨する。常に失敗を楽しむことは、意図しない結果をも許容するユーモアを確保することになるだろう。

身近な「社会」と対話する窓口を、ゆっくりと広げてくれる書物である。 (寺)

参加体験記募集中!

読者の皆様に参加された、「学び」イベントの感想やレポートをお待ちしています。掲載採用させていただいた方うち毎号1名様に1000円分の図書カードを進呈！ご投稿いただいた全員にもれなく粗品をプレゼント！

※採用の可否、図書カード当選者は編集部に一任いただきます。「まなびのめ」編集部へはがき、FAX、E-mail、Web版投稿フォームよりお送りください。

第55号 **まなびのめクイズの正解発表!!**

「まなびのめ」第55号懸賞クイズの正解は下記のとおりです。

Q.1 佐藤翔輔先生も編集に携わった『みんなの防災手帳』。宮城県内で全世界配布した自治体数は？ **答え 4**

Q.2 松崎丈先生が、国連の仙台防災枠組の作成に向けておこなった提言のタイトルは？ **答え 「東日本大震災における感覚障害者とICTの問題」**

図書カード
1,000円分

図書カード
1,000円分

図書カード
1,000円分

今号も「まなびのめ」クイズを実施しております。正解者の中から抽選で3名様に図書カードが当たりますので、奮ってご応募ください!! ※詳細は研究者インタビューページをご覧ください。

学びの庭におじゃまします

次号 テーマ：**「戦争を考える」**

2022年7月5日発行予定

〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町8番45号
 笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部
 FAX **022-288-5551**
 TEL **022-288-5555**
 (FAXは24時間受付 電話受付時間 10:00~16:00 土・日・祝日除く)
 ✉ manabinome@sasappa.co.jp

学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第56号/発行日2022年4月5日
 企画・編集 「まなびのめ」編集部/発行 笹氣出版印刷株式会社

「まなびのめ」編集部 川又進 菅野麻実 三上志穂 庄司真希
 オブザーバー：笹氣義幸 寺田征也 (明星大学) 協力：株式会社市瀬 有限会社阿部正志製本

©笹氣出版印刷株式会社 無断で複製、複製、転載することを禁じます。
 この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙はFSC® 認証材および管理原材料から作られている紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。






♡ご自由にお持ち帰りください。

TAKE FREE 無料

図書カード懸賞付
クイズあります
詳しくは中面へ

学術の世界と市民をつなぐ情報誌


まなびのめ

00

季刊誌 2022. 4 **第56号**

学びの庭におじゃまします 社会との対話


対話を促す哲学の視点



東北大学 大学院文学研究科・文学部 教授
 (現象学・技術哲学・応用倫理学)

直江 清隆 先生

対話の場に学ぶ社会学



東北文化学園大学 現代社会学部 教授
 (社会学)

山尾 貴則 先生

- 行ってみよう!
「学び」の場所へ
- これからの主な「学び」イベント **29件** 掲載!
 - 「学び」イベント に行ってきました
 - 名著への旅 『悪循環の現象学 「行為の意図せざる結果」をめぐって』(長谷正人)

● Voice Park



JQA-EM4031

Web版 随時更新中!

「まなびのめ」

<http://manabinome.com/>



発行 / 笹氣出版印刷株式会社

これからの主な「学び」イベント

有料 無料 要申込 申込不要

▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

詳細は **Web 版**に掲載しております。 <http://manabinome.com/>

ここに掲載する情報は、各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容等に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合先へご確認ください。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

定期開催	トワイライトサロン 「土佐誠の宇宙が身近になる話」	毎週土曜日 17:00▶17:45 無料 申込不要
	講 師 土佐誠氏 (仙台市天文台名誉台長) 場 所 仙台市天文台オープンスペース 主催者 仙台市天文台 問合先 TEL 022-391-1300	
開催中	企画展 「和の道具～くらしの知恵と工夫～」	～4月17日(日) 9:00▶16:45 有料 申込不要 休館：月曜、祝日の翌日
	場 所 仙台市歴史民俗資料館 主催者 仙台市歴史民俗資料館 問合先 TEL 022-295-3956	
	企画展 「公文書で見る明治時代のみやぎ」	～4月24日(日) 9:00▶17:00 有料 申込不要 休館：月曜、祝日の翌日
	場 所 吉野作造記念館 企画展示室 主催者 吉野作造記念館 問合先 TEL 0229-23-7100	
	星空と路 「3がつ11にちをわすれないために」 〈展示〉	～4月24日(日) 9:00▶20:00 無料 申込不要 休館：第4木曜
	場 所 せんだいメディアテーク7F スタジオ a 主催者 せんだいメディアテーク 問合先 TEL 022-713-4483	
	季節展示 「花見」	～5月5日(木・祝) 9:00▶16:45 有料 申込不要 休館：月曜、祝日の翌日
	場 所 仙台市歴史民俗記念館 主催者 仙台市歴史民俗資料館 問合先 TEL 022-295-3956	
	協定企画展「村田縄文 Academy 「姥沢遺跡の発掘調査からわかる 村田町の歴史」	～5月15日(日) 9:00▶17:00 無料 申込不要 休館：月曜、祝日の翌日
	場 所 村田町歴史みらい館 1階企画展示室 主催者 村田町歴史みらい館 問合先 TEL 0224-83-6822	
	東日本大震災文庫展 XII 「震災伝承：つたえつづけてゆく記憶」	～5月29日(日) 9:00▶17:00 無料 申込不要 休館：月曜、月曜が祝日の場合はその翌日
	場 所 宮城県図書館2階 展示室 主催者 宮城県図書館震災文庫整備班 問合先 TEL 022-377-8498	
	【企画展】おらほのアルバム ～縁側で見るまちのオモイデ写真～	～6月19日(日) 10:00▶17:00 無料 申込不要 休館：月曜、祝日の翌日
	場 所 せんだい 3.11 メモリアル交流館 2階展示室 主催者 せんだい 3.11 メモリアル交流館 問合先 TEL 022-390-9022	
	第23回白鳥省吾賞 受賞作品展	～7月31日(日) 9:00▶16:30 有料 申込不要 休館：月曜、祝日の翌日
	場 所 白鳥省吾記念館 主催者 栗原市 栗原市教育委員会 問合先 TEL 0228-23-7967	

「まなびのめ」を通じて、学術の世界と自分たちがつながっていることを意識した読者さんも少なくないようです。今回は「社会との対話」をテーマに、学術の世界が市民社会にどう関わろうとしているか、市民自身が社会とどう向き合うべきか、学んでいきたいと思います。まずは東北大学・直江清隆先生に哲学の視点からのお話をお聴きしましょう。

対話を促す哲学の視点

哲学の立場から科学技術を考える

「技術は本当に人間を幸せにするか？」などの問題を、主に哲学の立場から考える研究をしています。便利さや効率のみを追求することが人間を置き去りにし、様々な環境や社会の問題につながっていることが、今では広く知られるようになりました。そしてそれらを支える科学技術にも、倫理的な視点が求められてきています。

しかし私が子どもの頃には全く違いました。日本は高度経済成長に沸き、科学技術の進歩が未来を明るく豊かにすると、多くの人が信じていたのです。私も小学生の時から「科学者になりたい」と思い、高校では化学や生物の勉強に熱中しました。

当時私が通った高校では、はっきりと文系・理系に分かれたりはしませんでした。ちょうど現在の共通テストの前身となる共通一次試験が始まった年にあたり、国公立大学に進学するには、理科も社会も2科目を受験する必要もありましたが、「入試の勉強は各自で」という考えでした。「倫理・社会」の先生も哲学者の名前が並ぶ教科書はほとんど使わず、「ヒューマニズムとは何か考えよう」とか「英語で相対性理論を読んでみよう」という授業でした。理系志望の私にとっても刺激的で、自分から哲学の入門書に手を伸ばしたりしたものです。



東北大学 大学院文学研究科・文学部 教授
専門＝現象学・技術哲学・応用倫理学

直江 清隆先生

〈プロフィール〉(なおえ・きよたか) 1960年埼玉県生まれ。東京大学教養学部卒業。東京大学大学院 理学系研究科 博士課程満期退学。理学修士。博士(文学)。山形大学教育学部助教授などを経て、2005年、東北大学に着任。2013年より現職。編者書に『高校倫理の古典でまなび哲学トレーニング(全2巻)』、『理系のための科学技術者倫理』、『高校倫理からの哲学(全5巻)』など。共著書に『教養教育と統合知』、『岩波講座 現代 第2巻 ポスト冷戦時代の科学/技術』、『自然観の変遷と人間の運命』など。訳書にM.クワケルバーク『AIの倫理学』(共訳・訳者代表)、アクセル・ホネット『承認をめぐる闘争(増補版)』(共訳)、アンドリュー・フィンバーグ『技術への問い』など。

大学は理科で入りましたが、教養課程で哲学を学ぶとますます面白くなり、2年生の半ばで進学先を選ぶ際には科学哲学を第一志望に、生命系を第二志望にしました。あのとき第一志望に落ちていれば、今頃は注目的的生命科学の研究者になっていたかもしれないのに、と思うことが時々あります(笑)。大学院に進む際、科学哲学のコースが所属していたのは理学系研究科でした。それやこれやで図らずも「理学修士」で「博士(文学)」という、学位を持つことになりましたが、これは文理融合や学際的研究に関わる今の仕事に、役立っています(笑)。

私は哲学の専門分野としては、主に現象学という分野を扱ってきました。技術を巡る哲学的な考察や、社会の現実的な問題に取り組む「応用倫理学」も主要な研究領域です。そして古代ギリシア以来、哲学で重要な意味を持つ「対話」についても、専門家の間、市民の間、専門家と市民の間など、様々な場面でのあり方を実践的に研究しています。今回のテーマである「社会との対話」に即して、まず「科学技術の専門家と市民社会との対話」についてお話ししましょう。

市民と専門家が「共同研究者」に

ICT(アイシーティー/情報通信技術)の発達と普及は、私たちの生活や働き方を大きく変えました。コンピュータがまるで人間のように学習・判断をするAI(エーアイ/人工知能)や、電化製品・車などあらゆるモノが通信機能でつながり合うIoT(アイオーティー/モノのインターネット)などの新しい技術も、次々と実用化されつつあります。しかし一方で急速な変化や個人情報の問題に戸惑う人や、これからの技術の使われ方に不安や関心を抱く人も少なくありません。

振り返ってみますと、2011年の東日本大震災では東京電力福島第一原発が爆発事故を起こし、放射性物質が放出されました。現在も新型コロナウイルスの感染拡大や予防ワクチンの問題、生命倫理の問題などが、メディアで数多く取り上げられています。「かつてのように専門家任せではいられない」「自分で知識を得て、考え、判断する必要がある」という意識が、広く社会で共有されるようになったのです。

専門家の側も変わろうとしています。自ら市民に向けて説明の場を設けたり、自分の研究が実際の生活や仕事にどう役立つのかを訴えたりするようになりました。しかし「正確さと分かりやすさ」「説明と合意」などを巡って、専門家と市民の間には食い違いも目立ちます。それどころか専門家の間でも、文系

と理系など、分野の枠を超えて対話したり合意したりすることはとても大変です。理想は高く持つにしても、現実には誤解や試行錯誤を恐れずに対話を重ねるしかありません。

例として、私が関わっている2つの研究事業を紹介します。1つは「dSOIL(ディーソイル)プロジェクト」で、地球温暖化問題の解決に向けて、二酸化炭素に並ぶ温室効果ガスである一酸化二窒素とメタンの発生を減らそうというものです。内閣府が主導して挑戦的な研究開発を進める「ムーンショット型研究開発制度」に採択されました。実は一酸化二窒素とメタンの多くを発生させている人間の活動は農業で、水田も排出源として無視できません。このプロジェクトでは、2050年までに農地由来の温室効果ガスを80%削減するという目標を立てました。

目標達成のカギの1つが、一酸化二窒素を消去する土の中の微生物たちです。私たちは、「クールアース 地球冷却微生物を探せ」という市民科学プロジェクトを立ち上げました。全国の皆さんに土を採取して東北大学に送ってもらい、まだ知られていない微生物と一緒に探していただくという企画です。興味のある方は「クールアース情報局」というホームページを、ぜひご覧ください。

このプロジェクトには、広く市民に私たちの事業に関わっていただきたい、これまで以上に地球温暖化に関心を持っていただきたいという願いも込めました。そして専門家と市民が「共同研究者」となることで、環境や農業や食品に関わる科学技術についていっしょに考え、科学技術とともにどういう社会をつくっていくかについて対話が深まることを期待しています。

「自分で考える」人を増やしたい

関わっているもう1つの事業は、「人の幸せを大切にするIoT社会のデザイン」というテーマのフォーラムです。東北大学と、東京エレクトロン株式会社が共に主催しています。同社は半導体やフラットパネルディスプレイの製造装置における世界的な企業です。社会貢献や未来への責任の観点から、海外の著名な研究者を招いて国際会議やワークショップを行う「東北大学 知のフォーラム」を支援していただいています。

その一環である私たちの事業では、通常の内容に加えて、研究者・企業の技術者・(理工系および文科系の)学生・市民などが集まり、関心のありかや課題について対等な立場で語り合う「市民カフェ」を開催してきました。既に3回実施しましたが、市民の皆さんの関心は高く、専門家の側も、立場を超えて

懸賞

図書カードを
当てよう!

まなびのめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に
図書カード1000円分をプレゼント

Q.1 直江先生が関わる「一酸化二窒素・メタン」発生を減らそうという研究事業の名称は?

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。山尾貞則先生の記事もご覧ください。

応募
方法

はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び【応募締切】2022年6月10日 当日消印有効
発送に限り利用させていただきます。



意見を交わすことの意義の大きさを実感しています。

「社会との対話」というテーマの中でも、ここまでは「科学技術の専門家と市民社会との対話」のお話でした。もう1つ、「市民同士の対話の場」である「哲学対話」についてもご紹介しましょう。これについては、あるいは仙台市の施設である「せんだいメディアテーク」などで行われてきた「哲学カフェ」や、宮城県内の多くの学校で行われている「p4c(ピーフォーシー/子どものための哲学)」などをご存じかもしれません。

これらの場合は、他の参加者を攻撃しなければ、何を考えても何を言っても良いというルールで運営されます。同調圧力が強い日本社会では、こうした自由が保障された対話の場はきわめて貴重です。対話を楽しんだり視野を広げたりできるだけでなく、思考力や判断力を高めるトレーニングとしても有効で、医療系などの職場や、アクティブラーニングの授業にも導入されています。こうした動きを受けて2018年には、哲学研究者や教育関係者など多彩な人々が集って哲学対話について考える、「哲学プラクティス学会」も立ち上がりました。

最後に、「社会との対話」というテーマから哲学に興味を持っていただいた方に、少しでも哲学の宣伝を(笑)。哲学で大切なのは哲学者の名前や用語を覚えることではなく、自分で考えることです。小中学校の道徳も高校の倫理も、本当は自分で考えることの大切さや、面白さを学べる科目でなくてはなりません。現在の学習指導要領は思考力や判断力を重視して改訂され、大学入試もそう変わりつつあります。

そして考えるための道しるべとして、対話とともに、ぜひ入門書や古典を手にとっていただきたいと思います。私たちの社会が今後も経済の発展を旗印にするのか、それとも個人がそれぞれの人生を豊かに生きられる柔軟な社会を目指すのかについて、「自分で考える人」が増えることが私の願いです。

(取材＝2022年2月18日/
東北大学川内キャンパス 文学研究科棟9階 哲学・倫理学合同研究室にて)

学びの庭に
おじゃまします

学都仙台コンソーシアムさんの公開講座「身近にある『人を追い払うまちの仕掛け』—誰もが暮らしやすい社会のあり方を考える—」を受講した読者さんから、「ぜひ『まなびのめ』で取り上げて」と要望をいただき、講座の講師を務めた東北文化学園大学・山尾貴則先生への取材が実現しました。社会学からの「社会との対話」にもどうぞ耳を傾けてみてください。

対話の場に学ぶ社会学

意識せずに人を排除する社会

ホームレスと呼ばれる人たちや、引きこもりと呼ばれる人たちは、自ら「社会との対話」を拒んで、自分の殻に閉じこもっているように思われるかもしれませんが、しかしそれは間違いです。むしろ今の私たちの社会は、少しずつずいってしまっただけの人と対話しようとせずに、追い詰めたり追いやりたりしがちだと言えます。そして一番の問題は、実は私たちが、意識せずに人を選別したり排除したりしてしまっていることなのです。

たとえば「近所の公園で、若い人たちが夜遅くまでしゃべっているうさぎ」という問題を考えてみます。公園を管理している自治体に苦情を言っても、なかなか改善されません。今は自治体も正職員が減らされ、非正規の職員を加えてギリギリで回している状態だからです。

2009年、東京の足立区は「モスキート」という機械を試験的に導入しました。蚊の羽音のような、高い周波数の音を発生させる装置です。年をとると耳の機能が衰えてまったく聞こえませんが、若者には耐えがたい音を夜の公園に響かせます。しかしこの装置で若者たちを公園から追い払い、住民の不満が解消されたとして、私たちはそれを「科学技術の勝利だ」「たむろする若者たちの非行を未然に防いだ」と喜べるのでしょうか。

若者たちからすれば、「大人にも迷惑な人はたくさんいるのに、なぜ自分たちだけ狙い撃ちにするのか」「カネがないのに、公園以外のどこでしゃべれと言うのか」と思う人もいるでしょう。若者だけを選別し、公共の場である公園から排除しておいて、若者に社会参加を呼びかけても届くでしょうか。

私たちは専門知識と支援の経験を持つ人員を公園に派遣し、若者たちの話を聞くところから問題解決の道を探ることもでき

ます。若者たちは悩み事や心配事を語り合っているかもしれませんが、生活や将来に大きな不安を抱えているかもしれません。もちろんエネルギーの発散の場を求めている可能性もあります。たとえば夜遅い時間まで使える公共施設を開設し、そこに相談員も配置したらどうでしょう。しかし今の日本の経済状況では困難であり、選挙で票になりにくいことも事実です。

不満や不安は若者に向かいがち

「公園のベンチにホームレスが眠っていて怖い」についても考えてみます。これに対してはベンチに、座れる人数に合わせた「ひじ掛け」(のようなもの)を設置して、横たわれなくするという対策が取られてきました。

「住み込みで働いていた勤め先を急に解雇された」「折り合いがすごく悪くて家族を頼れない」など、人が住まいを失う事情はそれぞれです。しかし今の私たちの社会は、そうした「眠る場所に困っている」一人一人を、ホームレスとまとめて呼ぶことで選別し、公共の場から追い払って排除しています。「明日は我が身」とか「住まいと仕事があれば自立できる人もいるのでは」といった想像力を、私たちはほぼ失っているのです。

もちろん政治や行政機関が、何もしていないわけではありません。2002年には「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」が成立するなど、厚生労働省や自治体が様々な施策に取り組んでいます。しかし私たち市民の多くが「自業自得」「自己責任」と思っているのでは、限りある予算や人員を振り向けるのは難しいでしょう。

私たちは皆、自分の生活を大切にしたいと願っています。しかしそのために公園にモスキートを設置したり、ベンチに「ひじ掛け」を増やしたりしてほしいと思ったのでしょうか。問題なのはそうした判断をすることなしに、いつのまにか人を選別し、排除してしまっていることなのです。私は「社会との対話」というテーマは、こうした観点からも論じられるべきだと思います。

「引きこもり」の問題も同様です。いじめがきっかけの不登校や、就職活動の不調など様々な事情で苦しんでいる人を、まとめて「引きこもり」と決めつけることで、選別し排除してしまっています。これについても行政は数々の施策を打ち出していますが、社会の理解が十分だとはとても言えません。

なぜ私たちは自分とは別の世代に対して、また「ホームレス」や「引きこもり」に対して、対話を避けて厳しくあたってしま

うのでしょうか。それは私たち自身が苦しいからです。日本の高度成長期やバブル期は、遠い過去になってしまいました。もちろん「もう経済成長をしなくてもいい」ということではなく、日本もまた持続的な成長に向けて歩みを続ける必要があります。ただ同時に私たちは、日本中が再び好景気に沸いて、他国にうらやましがられるようなことはもうないだろうとも思い始めています。しかしそう認められない人や、「自分は頑張ってきたのに、行政の世話になっている人間が許せない」と思ってしまう人は少なくありません。そしてそうした感情の矛先は、しばしば「いまどきの若者」に向けられてしまいがちなのです。

「自立=就労」を超えた支援を

社会学は、「質的調査」といって、対象となる人に直接会って長時間話を聞いたり、その社会集団に飛び込んだりして、今まさに起きている社会の変化を説明しようと試みます。その一方で、データや歴史を精査し、理論を構築する研究でも蓄積があります。私自身はG.H. ミードの「自我の社会学」を中心に研究してきました。人間は社会に生まれ他者と共に生きる中で自我を確立し、成長させていくという彼の主張には、強い説得力を感じます。

2002年に栃木県宇都宮市にある大学に採用されてからは、縁あって若者の支援活動に取り組む市民組織に関わってきました。2006年に厚生労働省が、若者の就労支援を行う「地域若者サポートステーション」、略してサポステを各地に開設した際、その市民組織も事業を受託して「とちぎ若者サポートステーション」の運営を開始し、現在に至ります。

現在サポステは全国に100以上あり、宮城県内でも3カ所が活動中です。ハローワークだけでなく教育や福祉を含む幅広い関係機関と連携し、就学も就労もしていない若者の、敷居の低い相談先として機能しています。「とちぎ若者サポートステーション」では、面談やパソコン講座に加え、雑談を通して同じような悩みを持つ人とつながり、なんとはなしの安心感を持ってもらうプログラムを実施しました。これが利用者には好評で、自宅からは出られても就労には踏み出せない若者には、こうした「対話の場」こそが必要であることが明らかになったのです。

実は当初、私は半信半疑で「みんな楽しそうだけど、この人たち、いつになったら就職できるのかな」と思っていました。ところが一緒にトランプをしたり雑談に加わったりするうちに、だんだんと元気になっていく若者たちを見て、G.H. ミー

ドの主張の意義を初めて実感することができたのです。

私はこのプログラムの参与観察で得た知見を元に論文を書き、臨床心理学者らと協力して本をまとめました。その中では、ドイツの哲学者アクセル・ホネットや、インド出身の経済学者アマルティア・センの理論も応用して、「サポステのプログラムの評価は、単に就労を果たした利用者数だけでなく、自己承認など一人一人の内面の変化にも着目してなされるべきだ」と主張しています。

社会学の大大物中の大大物であるマックス・ウェーバーは、ある行為がその行為者にとって持つ意味の理解を重視しなければならないと説きました。たとえ共感できない人や行為であっても、私たちは「好き嫌い」を超えて、「どうしてそのような行為をするのだろうか」と考えたり、調査したり、データを分析することができます。そして、他者の行為を理解して、次に進むことができます。もちろんそのためには対話が、そして対話のためには「場」の設定が大切であることは言うまでもありません。

昨年からは、出身地である仙台の大学に奉職することになりました。大学の教員としてはもちろん、地域の一員としての自覚を持って、今後も実践的な研究に励みたいと考えています。(取材=2022年2月22日/東北文化学園大学3号館3階山尾貴則研究室にて)



東北文化学園大学 現代社会学部 教授
専門=社会学

山尾 貴則先生

〈プロフィール〉(やまお・たかのり) 1971年宮城県生まれ。東北大学文学部卒業。東北大学大学院 文学研究科 博士課程前期2年の課程修了。同後期3年の課程 単位取得退学。博士(文学)。東北大学文学部 助手、作新学院大学人間文化学部 講師、准教授、教授などを経て、2021年より現職。一般社団法人 栃木県若年者支援機構スタッフ(とちぎ若者サポートステーション)。共著書に「ポストモラトリアム時代の若者たち—社会的排除を超えて」など。



「ひじ掛け」のあるベンチ

懸賞 図書カードを
当てよう!
まなびのめクイズ 正解者の中から抽選で3名様に
図書カード1000円分をプレゼント

Q.2 「人間は他者と共に生きる中で自我を確立し、成長する」と主張した社会学者の名前は?
※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。直江清隆先生の記事もご覧ください。

応募方法 はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び【応募締切】2022年6月10日 当日消印有効
発送に限り利用させていただきます。



**Web版はより多くの情報を
随時更新しています。**

<http://manabinome.com/>

4 APR
**食と地域のくらし展 vol.7
「水揚げから食卓まで」
～水産物の加工と流通～**
4月9日(土)～5月15日(日)
 9:30▶17:00
 無料 申込不要

休館：月曜・火曜（5/3は開館、5/6は休館）
場所 リアス・アーク美術館
主催者 リアス・アーク美術館 **問合せ** TEL 0226-24-1611

**第100回企画展
「仙台の遺跡めぐり
再発見！富沢遺跡」**
4月22日(金)～7月18日(月・祝)
 9:00▶16:45
 有料 申込不要

休館：月曜、祝日の翌日など
場所 地底の森ミュージアム
主催者 地底の森ミュージアム **問合せ** TEL 022-246-9153

**特別展
「椎名誠 旅する文学館 in 仙台 2022」**
4月23日(土)～6月26日(日)
 9:00▶17:00
 有料 申込不要

休館：毎週月曜、4/28、5/6、5/26、6/23
場所 仙台文学館 企画展示室
主催者 仙台文学館 **問合せ** TEL 022-271-3020

**春季特別展「知の大冒険
一東洋文庫 名品の煌めき」**
4月23日(土)～6月26日(日)
 9:30▶17:00
 有料 申込不要

休館：月曜、祝日の翌日
場所 東北歴史博物館
主催者 東北歴史博物館 **問合せ** TEL 022-368-0106

**アースデイ講演会
「“ヒト”と地球環境の700万年史」**
4月23日(土)
 11:00▶12:30
 無料 申込不要
 講師 井龍康文氏（東北大学大学院理学研究科地学専攻教授）
 当日9時から整理券配布（先着）

場所 仙台市天文台 加藤・小坂ホール **定員** 50名(小学校4年生以上)
主催者 仙台市天文台 **問合せ** TEL 022-391-1300

**【記念講演会①】
「知の大冒険の水先案内
一東洋文庫とその至宝」**
4月24日(日)
 13:30▶15:00
 有料 要申込

講 師 岡崎礼奈氏（東洋文庫学芸課長）
場所 東北歴史博物館 3階講堂 **定員** 145名
主催者 東北歴史博物館 **問合せ** TEL 022-368-0106

**【オンライン】
山形小説家・ライター講座
&せんだい文学塾合同講座<4月講座>**
4月24日(日)
 14:00▶16:00
 有料 要申込

講 師 森田季節氏・猿渡かざみ氏（ライトノベル作家）
場所 オンライン開講（Zoom）
主催者 せんだい文学塾・山形小説家・ライター講座 **問合せ** sakka.naro@r7.dion.ne.jp

**企画展
「教科書でたどる仙台の教育文化
～江戸・明治から現代～」**
4月29日(金・祝)～7月3日(日)
 9:00▶16:45
 有料 申込不要

休館：月曜、祝日の翌日
場所 仙台市歴史民俗資料館
主催者 仙台市歴史民俗資料館 **問合せ** TEL 022-295-3956

5 MAY
**<東北歴史博物館>
史料講読講座 第1回**
5月15日(日)
 13:30▶15:00
 無料 要申込

場所 東北歴史博物館 1階研究室
主催者 東北歴史博物館 **問合せ** TEL 022-368-0106

**【オンライン】東北大学長岡同窓会
150周年記念 特別講演会
「東北の力・東北人の力・仙台の強さ」**
5月21日(土)
 16:00▶17:00
 無料 申込不要

講 師 内館牧子氏（作家・脚本家・作詞家）
場所 オンライン開講
主催者 東北大学長岡同窓会 **問合せ** TEL 022-717-8181


「学び」イベント参加体験記
**■宮城県公文書館企画展
「災害と公文書」―地震・津波と宮城県―**
 主催 宮城県公文書館
 2021年12月4日(土)～2022年2月26日(土) 宮城県図書館2階展示室

1月半ば、南太平洋トンガ沖の海底火山が噴火し、その影響により日本の沿岸地域に津波がやってきました。津波の専門家は噴火爆発時の衝撃が起こした空振による津波の可能性を指摘しています。そのような折、県立図書館2階展示室で開催中の宮城県公文書館企画展「災害と公文書」に立ち寄ってきました。

宮城県は地震保険料が全国的にみても高い方です。その宮城県の地震・津波災害関連の公文書が展示室の一角にこじんまりと展示されていました。テーマ順に示すと、1. 明治三陸地震・津波、2. 昭和三陸地震・津波、3. チリ地震津波、4. 昭和53年宮城県沖地震、5. 東日本大震災と宮城県公文書館です。宮城県下では約150年の間に著名な地震津波により5回も被災しています。

明治三陸地震津波が起きた明治29年は全国的に大水害に見舞われた年です。河川法など治水3法が制定され、国によって防災対策が本格的に開始されたころです。宮城県では津波の後も北上川や阿武隈川で洪水災害が起きたことから、連続災害の復旧支援を国に要請した文書が展示されていました。

昭和35年のチリ地震津波では、当時の気象庁の津波予報は遙か遠いチリなどからの遠地津波は対象にしていませんでした。そのため津波警報は発令されず被災地では混乱を大きくしたようです。

調べてみると、日本の津波予報は昭和27年から気象庁で正式に行われています。それ以後、度々地震津波を経験し、地震津波の調査研究の進歩もあり、津波予報は充実強化されてきましたが、対する自然は驚異的です。あの東日本大震災では想定外の津波が各地に押し寄せました。地震規模の推定にも問題があったようですが、津波予測に関しても課題は残りました。


発災当時、勤務地だった石巻市で地震津波を体験しました。旧北上川河口部では誰もが予想もしない高さ8mもの津波が襲来し、多くの人が犠牲になりました。昭和35年のチリ地震津波時、旧北上川河口部では水面が1m程度上昇し、浸水しました。津波の河川遡上で押し流された多数の船が橋で堰き止められ滞留し、この時の事故で犠牲者が1名でました。これが過去最大級の津波でしたが、この経験が地区住民の避難行動に災いしたのでしょうか。防災関係者も驚愕する津波でした。

旧公文書館書庫の被災状況（書棚から資料が落下、散乱）と新公文書館書庫の写真が展示されています。旧書庫は地震県のものとしては少々心許ない印象を受けますが、現在は免震機能付可動式の書庫に改善されています。東日本大震災級の地震でも貴重な公文書はしっかり保存されることでしょう。

トンガ沖海底火山噴火による津波は船舶や漁業設備などに被害をもたらしたようですが、沿岸地域の警報発令や深夜の避難行動にも混乱が生じたようです。今回の新たな経験が知見として加わり、今後、気象庁の津波予測、警報発令や関係機関の災害対策などが充実していくことになるのでしょう。ただ、歴史を振り返ると、自然界の森羅万象を予め予測して備えることの難しさを感じます。いつもながら自然には驚かされることが多いものです。

（仙台市 島田昭一）

「まなびのめ」配色法：襲色目（かさねのいろめ）
 第56号・春／「桃」（momo）


編集部レポート
**■リーディング・ライブ
「沿岸部の物語を伝える、語りを聞く」③高砂地区編**
 出演 上島 奈津子氏、野々下 孝氏、原西 忠佑氏
 演奏 山本 純氏（チェロ）
 2022年1月30日(日) 14:00～14:45 せんだい3.11メモリアル交流館

せんだい3.11メモリアル交流館で開催された、企画展「Voice～仙台市東部沿岸地域の伝承と物語」の関連企画<リーディング・ライブ「沿岸部の物語を伝える、語りを聞く」③高砂地区編>を観劇しました。仙台市東部沿岸地域にまつわる伝承や物語を朗読劇として上演する今回の企画は、①六郷地域編、②七郷地域編、③高砂地区編の三回開催されました。

③高砂地区編のみの観劇でしたが、上島奈津子さん、野々下孝さん、原西忠佑さんという在仙演劇ファンにはなんとも魅力的なキャストिंगでみごたえがありました。三人の軽妙な語りと、なんといつでも山本純さんのチェロの音色が物語を盛り上げていました。高砂という地域は、社会人になりたての二十代のころ、五年ほど通勤で通っていた場所です。今もあまり変わりませんが、その土地や地域に存在する石碑や神社、風習などに無頓着で生きてきたなあと思感しました。

民話のなかには、猿や鶏などの身近な動物、地蔵や達磨に天狗など昔話におなじみの登場人物が、その地域の言い伝えの語り部として、私達に過去からのメッセージを伝えようとしているのでしょうか。地域の変貌する様を記録する役割もあるように思えました。

仙台市東部沿岸地域は、仙台港が出来る前後に大きな影響を受けたようです。地域開発によって、地名が変更になったりすることによって、過去の災害の記録であったり、先祖が残してくれたアドバイスのようなものが失われていくことも今後さらに氣にかけていく必要があるでしょう。

物語を楽しみつつ、自分たちが暮らす地域に根差した習わしを語り伝えていく今回の試み、今後ぜひ継続してほしいものです。
 「まなびのめ」編集部 庄司 真希


Voice Park

第55号 シリーズ「東日本大震災」【11】—情報—

「名著への旅」掲載をいち早く見つけた高校3年の孫、今は受験前で読書できないけど、読みたい本を携帯に入力しておいて後日読むとのこと。（仙台市宮城野区・80歳）
 編：お孫さんの受験、よい結果が得られた暁に、「読みたい」リストの本を思う存分、読めるようになることを祈念いたします。

佐藤翔輔先生の、防災において経験や情報を「知る」ことは大切だが自分で「考える」力も欠かせないと言葉が印象深かったです。正しい情報を得るためにも必要な力だと思いました。（仙台市青葉区・48歳）
 編：「知る」＋「考える」が本当に大事ですね。周りのみんなと「話し合う」も個の力をさらに引き出すことにつながると思われます。

災害時に命を守ることの重要性がひしひしと伝わってきました。松嶋先生が高校3年生の時、先生に「もっと板書してほしい」とお願いしたところ、断られた上に叱られたという箇所は私にもショックでした。（仙台市若林区・78歳）
 編：松嶋先生の記事からは苦勞や悲しみが感じられました。学校の避難訓練の部分も衝撃でしたし、見直されるべきことが多くありますね。

「学びの庭」で健康増進について取り上げて欲しい。（仙台市宮城野区・67歳）

編：すでに何度か健康増進に関連したインタビューもしています。ぜひWeb版をご覧ください。
http://manabinome.com/interview-2/theme_list


その他のお便りと編集部からのコメントはWeb版でご覧いただけます。

これからの主な「学び」イベント
 詳細は **Web版**に掲載しております。<http://manabinome.com/>


5 MAY
縄文・宮戸まつり
5月22日(日)
 10:00▶15:00
 無料 申込不要

場所 奥松島縄文村歴史資料館
主催者 奥松島縄文村歴史資料館 **問合せ** TEL 0225-88-3927

**【オンライン】
山形小説家・ライター講座
&せんだい文学塾合同講座<5月講座>**
5月22日(日)
 14:00▶16:00
 有料 要申込

講 師 知念実希人氏（医師、作家）
場所 オンライン開講（Zoom）
主催者 せんだい文学塾・山形小説家・ライター講座 **問合せ** sakka.naro@r7.dion.ne.jp

**【記念講演会②】
「明治期の東北地方における
カトリック再布教の試み」**
5月29日(日)
 13:30▶15:00
 有料 要申込

講 師 牧野元紀氏（東洋文庫文庫長特別補佐、昭和女子大学准教授）
場所 東北歴史博物館 3階講堂 **定員** 145名
主催者 東北歴史博物館 **問合せ** TEL 022-368-0106

6 JUN
**仙台文学館ゼミナール 2022
「落語を味わう」(全3回)**
6月2日(木)・9日(木)・16日(木)
 10:30▶12:00
 有料 要申込

講 師 六華亭遊花氏（落語家）（申込締切5/11(水)）
場所 仙台文学館 **定員** 60名
主催者 仙台文学館 **問合せ** TEL 022-271-3020

**仙台文学館ゼミナール 2022
小池光 短歌講座 第142回**
6月4日(土)
 13:30▶15:40
 有料 要申込

講 師 小池光氏（歌人）（申込締切5/10(火)）
場所 仙台文学館 **定員** 60名
主催者 仙台文学館 **問合せ** TEL 022-271-3020

**2022年度基礎講座
「吉野作造の文章を読んでみよう」【第2回】
若き吉野作造は、ロシアの動向をどうみていたか**
6月5日(日)
 14:00▶16:00
 無料 要申込

講 師 氏家仁氏（吉野作造記念館館長）
場所 吉野作蔵記念館 講座室
主催者 吉野作造記念館 **問合せ** TEL 0229-23-7100

**<東北歴史博物館>
史料講読講座 第2回**
6月19日(日)
 13:30▶15:00
 無料 要申込

場所 東北歴史博物館 1階研究室
主催者 東北歴史博物館 **問合せ** TEL 022-368-0106

**【オンライン】
山形小説家・ライター講座
&せんだい文学塾合同講座<6月講座>**
6月26日(日)
 14:00▶16:00
 有料 要申込

講 師 青崎有吾氏（鮎川哲也賞作家）
場所 オンライン開講（Zoom）
主催者 せんだい文学塾・山形小説家・ライター講座 **問合せ** sakka.naro@r7.dion.ne.jp

7 JUL
**仙台文学館ゼミナール 2022
小池光 短歌講座 第143回**
7月2日(土)
 13:30▶15:40
 有料 要申込

講 師 小池光氏（歌人）（申込締切6/10(金)）
場所 仙台文学館 **定員** 60名
主催者 仙台文学館 **問合せ** TEL 022-271-3020

講座「教科書でたどる仙台の教育文化」
7月3日(日)
 13:30▶15:00
 無料 要申込

講 師 仙台市歴史民俗資料館学芸員
場所 仙台市歴史民俗資料館
主催者 仙台市歴史民俗資料館 **問合せ** TEL 022-295-3956